

別記様式(第4条関係)

会議録

| | |
|--|--|
| 会議の名称 | 令和5年度 第2回加東市健康増進計画等策定委員会 |
| 開催日時 | 令和5年12月25日(月) 13時30分から14時55分まで |
| 開催場所 | 加東市役所 2階 保健センター 健康教育室1 |
| 議長の氏名 (岡本 希) | |
| 出席委員の氏名 | 岡本希、神弘文、服部知一、春藤由里子、漆下重貴、山本貞江、深田初枝、岸本豊子、楯本俊也、井上裕子、小林大貴、鷹尾義人 |
| 欠席委員の氏名 | |
| 説明のため出席した者の職氏名 | |
| 出席した事務局職員の氏名及びその職名 | 健康福祉部長 近澤孝則、健康福祉部参事兼健康課長 細川公代、健康福祉部健康課副課長 岩崎香織、下崎ユカ、健康福祉部健康課主査 尾上加奈、浅葉由起、吉田里奈、健康福祉部健康課主事 立貝萌 |
| 1 開会 | |
| 2 あいさつ | |
| 3 議事 | |
| (1) アンケート調査の状況報告 | |
| (事務局) | |
| 資料1「アンケート調査の状況報告」に基づき説明 | |
| (議長) | |
| 説明が終わりましたので質疑に入ります。質疑のある委員は挙手をお願いします。 | |
| 平成30年にもアンケート調査をされたということですが、平成30年と今回の回収率を比べると、5～10%ほど回収率が上がっています。回収率上昇に向けての、事前の取組が功を奏したと言えらると思います | |
| 資料1については以上とし、資料2に移ります。 | |
| (2) 現行計画の進捗状況について | |
| (事務局) | |
| 資料2「加東市健康増進計画(第3期)の進捗状況」に基づき説明。 | |

(議長)

説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑のある委員は挙手をお願いします。

(委員)

17、18ページ、妊娠中の飲酒率と喫煙率の目標値の根拠は何ですか。基本的には0%であるべきだと思います。

(事務局)

もともとお配りしていた冊子の101ページに、飲酒率と喫煙率の令和6年の目標値の算出根拠を載せています。目標は0%にすべきということで、令和6年に0%になるように目標設定をしています。妊娠中の喫煙率は、平成30年が3.1%で、6年かけて0%になるように割り戻して目標設定をしています。「健やか親子21」という国の目標が、妊娠中の飲酒・喫煙についても0%ということなので、0%を目指して日々取り組んでいますが、年度ごとの実績なので、増えたり減ったりということが続いています。

(委員)

5年かけて徐々に減らすということですか。

(事務局)

毎年、評価指標に基づいて進捗管理をしています。

本来なら、妊娠中の喫煙率の減少については、令和元年からずっと0%を目標にしたほうがよかったかもしれませんが、まずは広く周知して、徐々に下げていくという目標設定にしています。この目標だったらいいいということではなく、最終的にはもちろん、妊娠中は飲酒も喫煙も0%を目指しています。

(議長)

他に質問はありませんか。ないようですので、次に進みます。

(事務局)

資料3「加東市自殺対策計画の進捗状況」に基づき説明。

(議長)

説明が終わりましたので質疑に入ります。資料3の説明に対して質疑のある委員は挙手をお願いします。

(委員)

6ページの「課題と今後の方向性」について、市職員の研修のことが書いてありますが、地域の中で一番実情を知っているのは地域の人なので、民生委員や自治会の区長さんなど、そういった方々の力を借りることが一番大事だと思います。分かっているけれども、声を上げられないということもあります。そのため、そういう人たちの声を拾い上げるシステムが大事だと思います。

(事務局)

地域の方にセーフティネットを広く張っていくということで、身近にいる方が理解を深

めていくことが非常に大切だと思っています。6ページの③に書いています、「こころの健康づくりネットワーク研修」ということで、一般市民の方に広く参加いただきたい研修等については、民生委員の皆様にも、ぜひご参加くださいということと、自殺の状況等も踏まえて、毎回直接出向き、お話しさせていただくようにしています。ご意見を参考にし、今後もできるだけ広く市民の皆様と一緒に自殺対策を進めていけたらと思います。

(議長)

5ページの「自殺リスクが高い対象群」を見ると、第1位と第3位は高齢の方で、経済苦と死別・離別が重複して自殺という経緯をたどっていると思います。2位、4位、5位の方は働き盛りの年齢で、仕事がうまくいかず、アルコール依存になったり、ブラック企業に勤めて、そこでうまくいかないということだと思えます。働く世代と高齢の方では対策が違うと思いますが、この辺りはどのように対策を取っていこうと考えていますか。実際、働く世代に対して、行政が働き掛けることはなかなか難しいと思います。

(事務局)

5ページの「背景にある主な自殺の危機経路」については、これが加東市の自殺された方の危機経路に当てはまっているわけではなく、例示です。ここまでは市に情報が入ってこないのが現状です。年代ごとに対策は違いますが、働き盛りの世代へ本年度も行ったこととしましては、商工会や企業を通じて、相談窓口のチラシを職員への配布や窓口への設置など働き盛りの方から高齢者まで、幅広く啓発していただいています。また、人権協働課と一緒に企業人権研修を実施し、市内の企業や働いている世代の方に、相談窓口やこころの相談窓口の電話番号等をお伝えしている状況です。

(事務局)

補足します。加東市の特徴として、工業団地が割と多く、派遣社員の方は失業・退職という経路をたどるパターンが多いです。そのため、もともと地域で育った方が自殺につながるというより、全国を転々とされて、派遣で工業団地に来られて、そこで失業された、住居がなくなった、というパターンが想定されます。さまざまな相談窓口を増やしていくことは一方では有効かもしれませんが、先ほど委員が言われた、地域の中での気付きや、そこで得た情報を市につなぐであるという仕組みづくりも大切になってきます。民生委員は3年に1度変わる役職なので、もともとの地区で顔見知りの関係であれば、民生委員もよく知っておられますが、新しくアパートができていく地区も市内ではあちこちにありますので、その辺の情報収集が、民生委員や区長でもなかなか難しい。そこが課題になってきています。

(事務局)

さらに補足します。そういったこともあり健康課としても、例えば、全戸配布しているまちぐるみ総合健診の申込書等に必ず相談窓口やメッセージを入れています。広く周知することもしていきながら、身近な方からもそういった情報をつないでいただけるような取組ができたらと考えています。

(委員)

私の経験から言いますと、市に聞いたら、個人情報だから出せないと言われて、地域の中でどうするのかという問題もあります。個人情報だから何も言えないということでは、民生委員活動ができません。そういうことも今後の課題として考えていただきたいです。

課題と今後の方向性に「市職員が、悩んでいる人に気づき」とありますが、どうやって市の職員が気づくのか。市の職員が2年に1回の研修を受けて何に気づくのか。地域の中の方々の力が一番大事だと思いますので、そうしたこともこれからの課題として考えてい

ただきたいです。

(委員)

鬱状態の方に周りが気づくというところを、もっと分かりやすく教えていただきたいです。家族に対しても気づかないことが多いので、もっと細かく教えていただきたいです。

(委員)

近所の仲が良かった奥さんが自殺されました。自殺される1週間ほど前に、本当にここにきて、生活苦も感じさせず、幸せいっぱいに見えました。様子がおかしいというのは、本当に分からないです。死にたいと思うのは、一瞬のことだと思えます。ちょっとしたおかしなことというのは、民生委員や区長や近所の方でも分からないと思う。何かSOSを出されていたのかなと考えますが、私には全然分かりませんでした。

(議長)

民生委員の力を活用する、情報を吸い上げるシステムをより強化する点や、家族や近所の方がサインに気づいたら、どこにつなげていけばいいのかというところを今後も強化していただきたいです。

他に資料3について、質問はありませんか。なければ次に進みます。

(事務局)

資料4「計画概要版」に基づき説明。

(議長)

説明が終わりましたので質疑に入ります。質疑のある委員は挙手をお願いします。特にないようですので、次に進みます。事務局から次の説明をお願いします。

(事務局)

その他として、資料はありませんが、各団体の委員の皆様へお願いします。健康増進計画では、市民一人一人の主体的な健康づくりの取組を基本とし、家庭・地域・学校・企業等とのつながりにより、健康を支え、守るための社会環境の整備を進めることが大切と考えています。次期計画においても、市民の取組はもとより、各団体の取組も重要と考えています。各団体の代表の委員におかれては、各団体での健康づくりに関する取組があれば、その内容や普段の活動で課題と感じていることなど、次回会議でご意見を聞かせていただければと思います。特に連合婦人会、シニアクラブ連合会、いずみ会、商工会の皆様には、本日机上にアンケート用紙を置いてあります。お手数ですが、ご意見があればご記入いただき、2月9日までに提出していただきますようご協力をお願いします。

次回の第3回策定委員会では、現行計画の実施状況とアンケートの結果、また、各団体での取組等を踏まえ、次期計画策定に向けてご協議いただく予定です。

(議長)

説明が終了しましたので、質疑に入ります。健康増進計画と自殺対策計画についての説明がありましたが、全体を通して、質問はありませんか。

(委員)

加東市も高齢者が増えてきているが、大事なことは、若い人たちをよそから取り込んでくることです。若い人たちがこれから加東市に住むような施策を、次期計画で少し考えて

いただきたいです。

私の経験から言うと、ある病院が病児保育を行うことで保護者を助けたということがあった。若い人たちに加東市に来てもらい、子どもを産んでも安心して生活できるような取組がこれからは必要です。そういう観点からも考えていただきたいです。

(事務局)

また、次回からの会議でも思い付くこと等あれば、ご意見をいただきたいです。

(委員)

アンケートは商工会の中で取り組んでいることを書けばいいですか。

(事務局)

今回は、先ほど申し上げた4団体の方にアンケートをお渡ししています。活動内容も団体によってさまざまだと思いますので、健康に関すること等があればご記入いただき、普段の活動の中で、健康に関することなどで気になっていることや課題と感ずること、また、会の運営について困っていることがあれば記入して、提出いただけたらと思います。

(委員)

わかりました。代表の方がどこまで健康について知っているかというところが一番問題です。間違った情報を出してしまうといけませんので、代表の方の知識を増やすことが大事だと思います。

(事務局)

今回のアンケートは今日出席されている方のご意見を、会として踏まえて書いていただいても、会長さんにご相談いただいた上でご記入いただいても結構です。

(委員)

資料の最後のページの下から4つ目、「認知症サポーター養成者数」の令和4年の目標達成率が45.3%になっており、サポーターの養成者数が減っています。令和2年はコロナの影響もあってそうだったと思いますが、それが依然として低い値になっています。今、私たちの活動でも大変問題になっているのが、ボランティアの担い手が減っていることです。私自身も仕事が一段落してから、市のサポーター養成講座を受けてボランティアの道に入りました。養成者が増えることはとても大事なことだと思っています。その辺り、今後どういう方向で養成講座をされるのか伺いたいです。

(事務局)

担当課が高齢介護課のため、令和4年度の実績が少なかったことに対する、今後の取組の具体的な情報を持ち合わせていません。担当課にはそういったご意見があったことを伝えて、協力していけることがあれば、考えていきたいと思っています。先ほど委員が言われたように、定年延長で60歳を過ぎても働く方が多く、なかなかシニアクラブに入られないとか、ボランティア活動をされる人数の確保が難しいという声を市としても聞いています。ご自身のお仕事との兼ね合いの中で、まだまだ地域の活動や一緒に取り組んでいただけことの推進はしていかないといけないと思っています。その辺りの課題を今後どうしていくかということになると思うので、皆様のほうからも、このような取組があれば参加しやすいとか、こういったことなら考えられないかというご意見をいただきながら考えていけたらと思っていますので、よろしくお願ひします。

(議長)

本日は事務局から、健康増進計画と自殺対策計画の枠組みと今後の方針も聞かせていただいた上で、議論もできたと思います。分野が広い状況ですが、加東市には頑張っていただき、加東市をより住みよいまちにしてもらいたいと思っています。

それでは議論も出尽くしたように思いますので、本日の議事を終了します。事務局に進行をお返しします。

(3) その他

(事務局)

次回の策定委員会の日程について説明します。第3回の策定委員会は、2月27日火曜日の予定です。

4 閉会

(事務局)

以上で、令和5年度第2回加東市健康増進計画等策定委員会は閉会します。

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

令和6年1月25日